国語科学習指導案

研修グループ　Ａ

江田島市立江田島中学校　　 小松　采佳

広島県立広島特別支援学校　 畝本　栄子

廿日市市立大野東中学校　　 山近　さやか

北広島町立大朝中学校　　　 大下　真央

１　日　時　令和６年10月10日（木）第３校時

２　学　年　第１学年１組　男子19名　女子20名　計39名

３　単元名　「物語の魅力」とは？〜「少年の日の思い出」との並行読書を通して〜

４　単元について

1. 単元観

　本単元は、中学校学習指導要領（平成29年告示）国語第１学年〔思考力、判断力、表現力等〕のＣ読むこと（１）エ「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。」、オ「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること。」を受けて設定したものである。物語の構成や、登場人物の心情の変化を捉え、表現の効果を考えるためには、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながるのかなどについて、自分の考えをもつことが大切であり、その際には、根拠を明確にすることを重視する必要がある。また、自分の考えを確かなものにするためには、まず、文章の内容や構想を捉え、精査・解釈する必要がある。その上で、他者との交流を通して改めて自分がどのように精査・解釈したのかを振り返ることが重要である。

　本単元において共通に扱う教材「少年の日の思い出」は、場面の展開や構想、登場人物の関係や心情の変化、語り手、伏線、描写などの特徴が分かりやすく、多様な観点から論じやすい。教材文や並行読書から様々な特徴を多面的に捉え、考えを形成する学習活動に効果的な教材である。また、生徒自身がこれまで学習してきたことを生かし、読み深めることにより、読書の有用性を実感したり、自身の考えを広げたり深めたりすることにつながる教材であるといえる。

（２）生徒観

省略

（３）指導観

　指導に当たって次の手立てを講じる。

1. 全ての生徒が、課題を自分事として捉え、主体的に考えていけるようにするため、並行読書の作品は、難易度を変えた複数の作品の中から自分自身で選択させる。
2. 「場面の展開／構造」・「伏線」・「登場人物の関係」・「描写（心理描写・行動描写・情景描写）」・「視点」の観点について、復習する時間を設定する。
3. 生徒が叙述を明らかにして比較・分析しやすくするために、ＩＣＴ機器を活用した思考ツール（ベン図）を用い、考えを形成する過程を適宜視覚化させる。
4. 配慮が必要な生徒への支援として、本文に印を付けたり色分けしたりするなどして、思考の跡を残させる。
5. 毎回の授業において、「物語の魅力」について考えたことを振り返らせる。

以上のような手立てを講じ、本単元の学びを通して、全ての生徒が文学的な文章の奥深さを知り、

日々の読書活動の充実につなげたい。

５　単元の目標

〇　読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することが

できる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〔知識及び技能〕（３）オ

　〇　文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ（１）エ

〇　文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ（１）オ

〇　言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。　　　　　　　　　　　　　　　　　「学びに向かう力、人間性等」

６　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 物語の魅力とは何かをまとめる。 | | |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。  （（３）オ） | ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。（Ｃ　読むこと（１）エ）  ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。（Ｃ　読むこと（１）オ） | ・粘り強く文章の構成や展開、表現の効果について考え、今までの学習を生かして自分の考えを確かなものにしようとしている。 |

<評価の具体及び手立て>

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 評価規準【「おおむね満足できる」状況（Ｂ）】 | | 「努力を要する」状況（Ｃ）と判断した生徒への指導の手立て |
| 思考・判断・表現 | ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。  ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。 | 「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断できる生徒の具体例  　私は「少年の日の思い出」と「ごんぎつね」を「伏線」の観点で比較した。「少年の日の思い出」は、思い出が語られる前の情景描写が、「昼間の明るさは消えうせようとしていた。」「たちまち外の景色は闇にしずんでしまい、窓全体が不透明な青い夜の色に閉ざされてしまった。」など、暗い景色が描かれている。これには、これから語られる思い出が明るい話ではないことを予想させる効果がある。一方、「ごんぎつね」は、ごんが「夜でも昼でも、あたりの村へ出てきて、いたずらばかりしました。」「はたけへ入って芋をほりちらしたり、………いろんなことをしました」のように、普段からいたずらばかりしていることが、兵十に誤解され、うたれてしまう場面の伏線になっている。  　　　　　　　　　　　　　（本時案ではここまで）  　このように、物語の魅力は、伏線によって物語の今後の展開を予想することができることだと考える。その予想が的中していると「やっぱり！」と自分の読みが正しかったことを証明できたり、物語を読み終わった後で、実はあの場面のあの言葉は伏線だったんだな、と気付いて楽しんだりすることができるため、今後読書をする際には、伏線に気を付けながら読んだり、読み終わった後にもう一度伏線に気を付けて読み直したりしたいと考える。　　　　（次時で考える） | ・ロイロノートでサポートシートを配付する。  ・ルーブリックを示す。  ・考えを言語化するこ　とが苦手な生徒については、図示したり、口頭で考えを伝えたりできるように配慮する。 |

７　指導と評価の計画（全８時間）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 次 | 時 | 学　習　内　容 | 評　　　価 | | | |
| 知 | 思 | 主 | 評価規準・評価方法等 |
| 一 | １ | ・現代の中学生の不読率を示　し、その原因について意見　を交流する。  ・自分の考える「物語の魅　力」について考えを交流す　る。  ・本文を通読し、話の大筋を　捉える。 |  |  |  |  |
| 二 | ２  ３  ４ | ・伏線や額縁構造、比喩を多　く用いた表現とその効果に　ついて理解する。  ・場面ごとに「僕」の心情の　　変化を読み取る。 |  |  |  |  |
| ５  ６  ７ | ・「少年の日の思い出」と別　の作品を読み比べ、観点を　決めて特徴を比較させ、作　品や観点ごとに交流して精　査・解釈する。  **（本時６／８）** |  | ○ | ○ | 〔思考・判断・表現〕  　ロイロノート  ・文章の構成や展開、表現の効果につい　て、根拠を明確にして考えている。  〔主体的に学習に取り組む態度〕  　ロイロノート  ・学習の見通しをもって積極的に他の作　品と比較・分析し、作品の特徴や表現　の効果を理解しようとしている。 |
| 三 | ８ | ・前時までの比較分析を通し　て考えた「物語の魅力」に　ついてまとめる。  ・他の視点を選んだ生徒同士　で交流し、考えを広げる。  ・単元の学習を振り返る。 | ○ | ○ |  | 〔思考・判断・表現〕  　ロイロノート  ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしてい　る。  〔知識・技能〕  ロイロノート  ・読書が知識や情報を得たり、自分の考　えを広げたりすることに役立つことを　理解している。 |

８　本時の学習

（１）本時の目標

　　　他の文学的な文章と比較・分析したことを交流し、自分の考えを深めることができる。

（２）学習の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | ○指導上の留意点  ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て | 評価規準と評価方法 |
| ・前時までの学習内容を確認する。  ・流れを理解する。  ・前時までに考えた内容を、作品ごとの班に分かれて交流する。  ・交流した内容を基に、自分が物語の魅力だと思う観点を決める。  ・振り返りを書く。  →数名は全体で発表する。 | ◯観点を復習する際は、これまで学習してきた文学的な文章の例を挙げ、既習事項との繋がりをもたせるよう留意する。  めあて：他の物語と比較・分析したことを交流し、自分の  　　　　考えを深めよう。  ◯具体的な場面や描写を引用しながら交流するよう指示する。  ◯新たな気付き等を、これまで作成してきた思考ツール等にメモしながら聞くよう指示する。  ◆言語化するのが難しいときは、前時までに作成した思考ツールを使って交流するよう指示する。  ◯最初の考えから変わってもよいことを伝える。  ◯比較する６つの観点を板書で提示しておく。  ◆サポートシートや紙面でのプリント対応  　学力上支援が必要な生徒には、キーワードをあらかじめ明記したサポートシートを配付し、白紙のままにならないようにする。また、視覚支援が必要な生徒には、画面を見ながら考えられるよう、紙面で対応する。  ◆言語化するのが難しい生徒には、自分の作成した思考ツールと、最も参考になった思考ツールを提出するよう指示する。  予想される生徒の反応  ・私は「ごんぎつね」という作品の「展開」に魅力を感じていたが、今回の交流で兵十とごんの両方から描かれている「視点」も面白いということに気付いた。  ・私は「よき妻」の「伏線」に魅力を感じており、今回の交流で同じ視点を選んだ人が、自分より多くの伏線を見つけていたので面白いと思った。  ◆発表者以外の意見も見られるように提出箱を共有し、参考にしながら自分の考えを広げたり深めたりできるようにしておく。 | ◯文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。  （ロイロノート）  ※評価は、５～７時間を通じて、総合的に行うものとする。 |

（３）板書計画

少年の日の思い出　ヘルマン・ヘッセ

めあて　他の物語と比較・分析したことを交流し、自分の考えを深めよう。

【観点】

　場面の展開／構造

…　起承転結、山場、

きっかけ

　登場人物の関係

…　設定、

どのように変化するか

　伏線　　…　次の展開の手がかり

　描写（心理・行動・情景）

…　読み手に伝わる表現

　視点　　…　語り手、主観、客観

◯　根拠を明確にして話し合うこと。